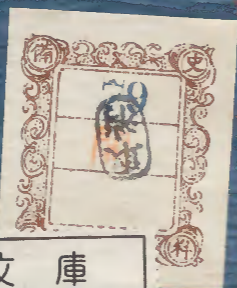


成形圖說

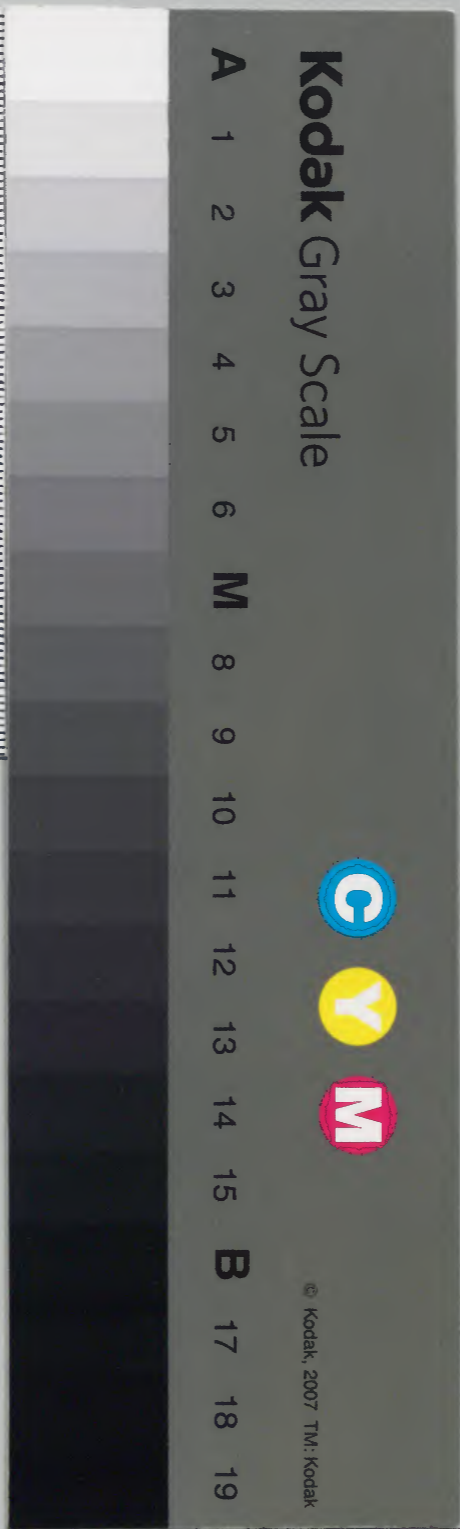
五穀部

十六

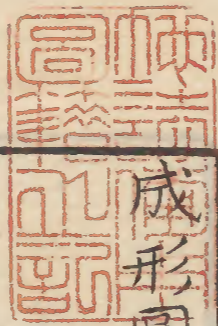
庫文閣内			
一九六	二九四	和	
八	三八	書	
架	冊	號	類



内閣文庫			
番號	和	29438	
冊數	30 (16)		
函號	196	96	



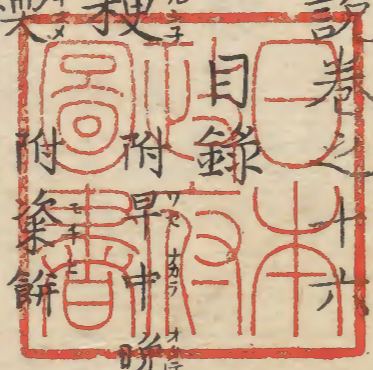
尚
79



成形圖說



稷ルミ 粳ルミ 稷ルミ 陸稻ハタケイ子 私シ 稻孫ヒツナイ子 糴オコキ子



成形圖說卷之十六

附錄
附錄
附錄
附錄

成形圖說卷之十六

内
一
一
一
二
〇
〇
〇



堀氏
文庫

成形圖說卷之十六

五穀部類

宇流志禰書紀○延喜式よハ米の一字と宇流志

宇流與禰按は禾と志禰とい志良介米新撰真稻

真米志夜久乃米蓋字鏡謂志良介米の訛也白と志

和名鈔引本州粳米一名粳米音じと 粳音庚即粳

和名今按字書粳の字ふし古文あり或作粳

曰秋米曰粳志くれと 秋粳今通し不黏者禾小師古

紀籼 籼籼今通し不黏者禾小師古

蕃名レイスト

成形圖說卷之十六



内一二三〇號



うはとく獲あり延喜式も獲の字を書き志祢八年稻
 の約ツギともあり年ハ穀ノコの為ありふと時節の所よくをし
 くんえとる此もの米の中あても好むなりて獲ハふとの
 著イナヒシ者あれバいつりて先ハ潤ツルあるとさして各つく凡凡種ノの春
 米コメと糯ヌカ米メを較ヒみるに稈ハ稈ツツ光澤ツヤありと此ものハ即即人の
 常ト糧カシとし食シふ所の米ありそ申申あて早ワセ中オカラ晩オシテの三ミ種ホリあ
 り夫和漢土地と異コトよし米性ノの美惡ハ迫ハひるかき
 とらひとら主種ウエ獲カルの時節トキねたがとさふまをてハ益シ善
 天乃同トりたる所あり但南ナ北ホク寒熱ニ偏カるものは早ハ晚シ日ヒは
 同トして遠カく〜遠カ況カやそ名品ナヒンなりては一國イツクニの中一郷

の省ふして各地の俗用一定なく或ハ同種ありて数斗
 名又其形状と相分毫厘の差なくして又播種ハ時々
 二流^{ハヤリ}行^ハきたるものと極^ハれハその三四年は成^ハ実^ハよろしと
 て種^ハ易^ハして作^ハるものなれハむり今^ハの種^ハ穀^ハさ^ハ良^ハ莠^ハ
 の分^ハり^ハ故^ハに徧^ハく四方の俗^ハ種^ハと考^ハる^ハ及^ハも他^ハ日^ハ查^ハ
 究^ハておの^ハの^ハし^ハか^ハる^ハ知^ハる^ハの^ハあ^ハる^ハし
字書又種又特種烏稜
赤稷白稜と皆種名
 田^ハ應^ハ役^ハ丁^ハ之^ハ處^ハ毎^ハ年^ハ宮^ハ内^ハ省^ハ預^ハ准^ハ米^ハ來^ハ年^ハ所^ハ種^ハ色^ハ目^ハ及^ハ町^ハ段
 多少依^ハ式^ハ料^ハ功^ハ申^ハ官^ハ支^ハ配^ハ
義解謂色目者種白黒
為色也種名為目也
 稲^ハ名^ハの^ハ少^ハ
 え^ハる^ハ最^ハ尚^ハし其^ハ後^ハの^ハ考^ハに^ハ袖^ハ乃^ハ兒^ハ長^ハ日^ハ子^ハ穗^ハ多^ハ兒^ハふ^ハど^ハ

稻の名と詠ふあり今種諸物傳ふる所稲名亦多し○和
 名鈔引唐韻類青稻白米也實白稻とあり
糲或按風
作糲
 土記穰穀之紫莖種稻之有青穰米皆青白者也又袁淮觀
 殊俗云河内青稻新成白稷也淵鑑類函は身々々り
 和世萬葉集歌よとめらよのちあはる速稲と川とに
 稻あり下徳國葛城郡の中は二五^ハと云ふあり其代の
 早稲東國第一の早稲といひ一説は秋の初いと云ふ
 く熟ぬきはると秋の初といひ一説は秋の初いと云ふ
 あり早手の手と云ふ義中は
早代^ハ匠材集^ハ○志呂
 早稷本州の時珍云六
早稻幾暇格物論○聞書
 早禾
 農書 穆稻農政全書櫃田淺
 侵處宜種黃穆稻
 成形圖說卷之十六
 四

蕃名 フルীগレイピゲレイスト

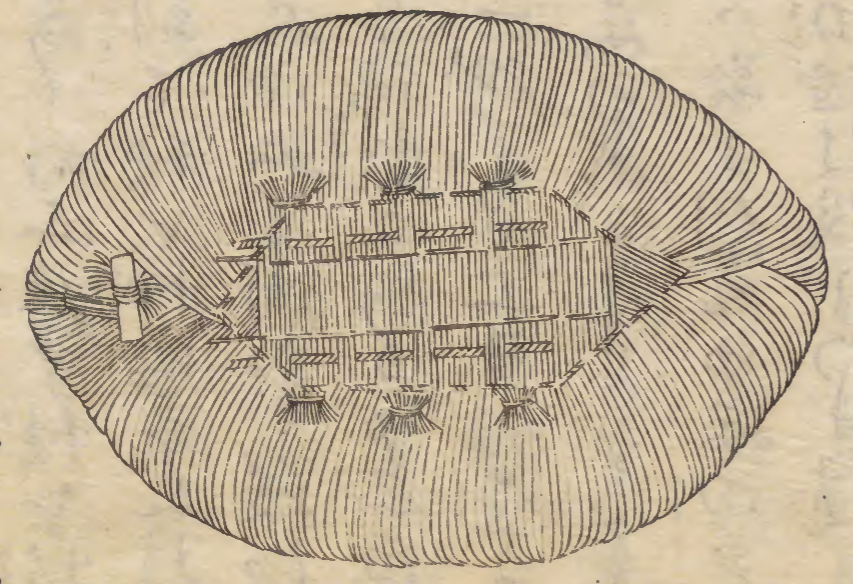
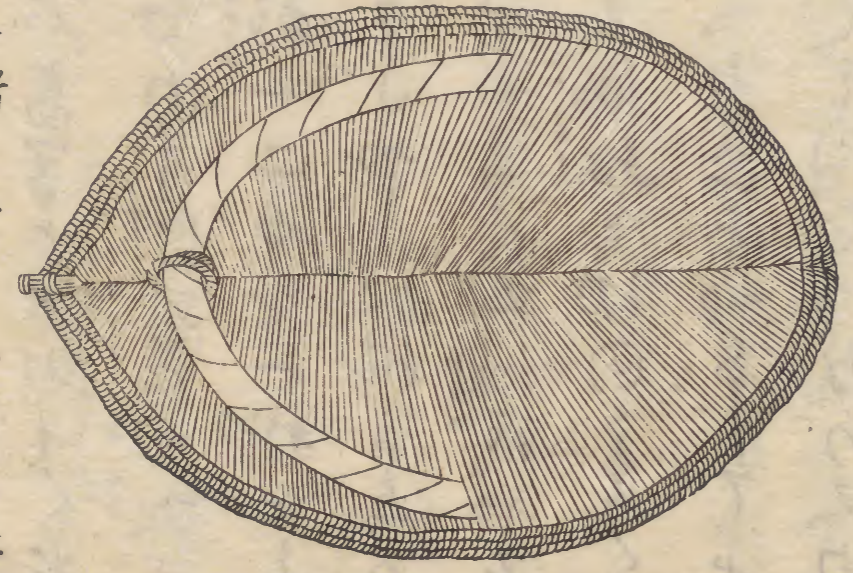
和ハ早あり波と和と通つるを按ワカレ子ハ早稲ハ若稲あり若
苗ありふおもい合ふし稲と約ヨクハ世とわらう故又
和世と称ナつり早稲ハ若年ワカレ子ハ中稲ハ中年あり晩
稲ハ老成オトナキグホとし凡ワ葉ハ早稲ワサ田早穂ワサガの如多く之
ゆゑ事記傳曰和依とく稱稲ハ限ナは清ナと和世と
下に連ね言とすいともいふあり又万葉に葛飾早稲と
あるは下徳園葛飾郡とて稲とて稲とてすまよ新嘗ニハ
祭ニリとくすふ此奇の中ナはホとくすくく入るこの人
ハ内ナはこれとくすまよ家持家集ナにホ高のふ田ナかりわがて

嘗ニハとくすまよ使ナはむがよはなすことハ此稲事成稲了
よし袖中抄ナと載ナり律集ナ歌ハ早稲田ワサの名あり今者字
田ナと書 又源大府卿集ナよまよつりしるは早稲とせナり
まよありしるは葉の花ナとて稲ナ密ナと花ナてまよナまよ
さうとくす類とくすおさし夫ハ葉ナとくすのせは野次
のわら田ナうちあしナいさげる代ハしられナくも一
説ハ播磨の家ナとくす所の稲ナとてせナといふに早の
河副ナとくすは子端ナの中ナとておまよやくナのるナとくす
とくすは雪玉集ナにナくすんナ葉ナとくすくナきナて和風
いそくナあナ早ナとて皇極紀五月熟稲ナ始見ナくは是早

録と聞クニスル朝鮮早稻の種取ふと載り朝鮮ハ極ての寒
 土ふれと心ふも寒土よね魚の子縮りるもいともあり○凡
 子稻アヲと作りの利ハ氣し七八月の間オホむれハ流水大風
 子遇アヲて縮トリミと生ワレナふたよの生ナを子稻アヲをれハ夏月法
 穀の種タエを種ソイを種ソイて夫よ濟サの利と當し農氏と合物よ
 困シムむ又麥種ムギと種ソイを種ソイるをり々東陸州ハ稚陽の地
 まで時令ハ西南より極寒サムサと一ツととそ田アハ早
 稻と種ソイの種ソイ農夫フユキ冬中より田ア起キるも急春草クサ根と断キ
 て土の膏アツラキ深フとまふとつりされとも田ア中ア一ツ年鳥通ア原
 ハつりよ及び本皮葉葉或ハ麩苔チリコケゴミ諸芥とも種ソイと田ア中ア

天子御艸オノ橋ハシ圖ヅ 布フめまとは南都春日ミナトの社家米メ七升シ
 つり下シ行クよして一足ヒトと作ツるルと云フ

稲得イネ 一筋ヒト 表裏ウラ 取合ト 先とマ 後とシ して 細ホソひの 稲縄イネ 縮チヂむ



裏ハ 皮ウ履シ ぬ程メ あり 麻アの あり 縮チヂむ たり け

成形圖說卷之十六
 鼻緒ハ常の艸履オノ共ト包ツむ
 鼻緒ハの飯メと紙シ
 七

へあつと土と反はつと耕通して春月揚戸嫩葉と芽と
 候て石草等と刈れくカキキ 蕘カキキより三月中秧と扱て栽
 入るるオトナ 所老農田畝を所副て秧と挿は者人持引と
 入る類一二本と一科とし二尺四五寸間距を根深く土
 入さるやうに植るありかく稀疏ヒバシラよりゆゑ苗根子
 日あつとよく立滋茂チカカユやと一科より二斗餘モトも植
 と地又細耘と初のころより葉の葉よまじりて実のころ
 田地へあつとかくして七月の既上刈ゆゑ田戸罷成
 ぶしてそりて澤あり又曰く田租は段よりモト糶米一斛
 八斗又藍苗等の年税あり梅子ウヅメ一科一二本はくあし

て荷のウツ間稀ヒあるとのハ田地を編ヒみりてウツゆゑ
崔寔四民月令云三月可種種 稲美田欲稀薄田欲稠即是耳 是うはウツ米穀オホク狼戾オホクと
トイフ 收穫トイフより磨スリひスリよスリまスリて齒メツタ萃メツタふるがゆゑメツタふるメツタ物メツタ渣メツタ奥
 土メツタ相メツタ等のメツタ土ハ土地潤くヒロ厚ヒロくゆゑヒロ初ヒロより田地ヒロ肥ヒロ養ヒロ
 と施ヒロよ及ヒロ以ヒロ山形等の田ハヒロ子ヒロ秧ヒロと栽ヒロるのヒロあヒロるヒロ畑ヒロ中ヒロへ
 入ヒロりて川泥ヒロと拌ヒロるの濁ヒロ流ヒロと田ヒロへ流ヒロさすヒロて度ヒロのヒロころヒロて
 再ヒロ糞ヒロを用ヒロうるヒロなりと酒ヒロより又秋田ヒロ頃ヒロの子ヒロ播ヒロ米ヒロハ浪ヒロ華
 にはヒロ致ヒロして秋の彼岸ヒロ後ヒロよりヒロ子ヒロ造ヒロ乃ヒロ酒ヒロ不ヒロ釀ヒロやヒロ俗ヒロよヒロ之ヒロと
 何ヒロ等の造ヒロと云農業全書日早稲ハ苗代ヒロよヒロおヒロくヒロりヒロ廿ヒロ日

さふ出るるしと秋菘ふあつてのいぬ
二番物 俗云
二番

早稲 以上本州綱目時珍
半夏稻 蔡邕月令章句
十月獲稻人君

中稻 遲稻 八月收者為遲稻
賞其先熟故在九月熟者謂之半夏稻
按半夏稻亦中稻

の事也 固の十月ハ今の八月より
禮記舎人懸種桂之種
註後種先熟曰桂 桂亦作膠毛詩黍
稷重桂 疏上も同じ 周禮亦同也

蕃名
中手ハ即中半稻もて手ハ年の幼もより祝詞式ハ奥

手ハ奥津御年とらるるもてあはくし年の志ハ勢

と通よりゆゑハ和勢とといふ又年稻と結て志祿とも

いり又結して麻のふとけあさてともいふと不葉は

ええり

中手の稲ハ二月春分の頃種を撒入てより五月五日

八十八夜の節より早苗と抜て栽培あつて八月中旬

より先より又十月より熟新とあり凡中稲の熟るる

種よりして中香子ハ芒もく粒次し稗米ともいふ白し飯

よ炊ておろくも釋ハ衆蒸よりハ種もより粒とも收實を

少とて多とて此と共染盛も何とあり

稲一種取芳氣以供貴人收實甚少滋益全無不足尚也

本艸蘇頌云香梗長白如玉可充御貢昂貴の物あり又農

政全書よ香子とての致富全書よ寄穂芒稗米共

香稲ともいふ皆同種とてし

てハあのものも米の上等とせり

累兒 紅く米白し

成形圖説卷之十六

饗蔓 芒稈米 近江兒 芒稈米 暎越 芒赤く稈 白

芒毛 芒稈米皆白又赤 黒稻 芒稈穂並に黒 稈白粒最

黒米烏稻黒稲もついでに西土まで 岩小摺 種

京白 飯釋 負荷田 毛實 一節 絹買 万倍

子 實一倍 芒無 庭溜 冷毛 砂子 青鰾 黄治

赤毛稲 亦京稲 此他尾張美濃ふし

のりそ形状較差何るのこして類細仲の皆殊に美

奥手 百葉集 祝詞式 奥津御年 云是なり 和名鈔 頃

於志福 和字正 濫鈔 歌 云 此 稲 於 久 天 或 又 處 有 之

稲 田床 田地より 此者久しく 遲稲 後

晩稲 爾雅翼 本州時珍云 十月 収者 為 晩稲 又 云 諸 本 州

の 名 と 奥 年 と 多 と 稱 せ 晩 稲 の 事 係 邦 友 の 時 凡 稻

東壁 專以 穠 為 稻 殆 泥 獲 稻 種 禮 記 種 稜 之 種 註 先 種 後

之 注 乎 晚 稻 未 必 盡 是 穠 也 種 熟 曰 種 詩 疏 種 作 童 註 同

稽 也 是 此 間 の 俗 謂 出 來 刈 也 宜 一 糖 の 字 と 照 し 考

晩米 本州 必讀 晩禾 文 說

蕃名 ラートレイヒゲレ イスト

奥手ハ即奥年より奥ハ後 通ふそ奥の邊より

成形成圖說卷之十六 十一

ハ前よりつるがおと穀の各ふれハ粒晚禾とあるとい
 うもどはるは異なれば晩の義とのを解は手といふ
 こと何ふるわあといふに似たり

その種うけハ中稲よおれし新習先種後熟あり四月
 中旬よりして小苗を引き五月六月までを極むるなり
 十月十一月よりおりおりて刈るは又行山里の溪
 田あるよりハ十二月迄あつたはるの有りかくはさよハ
 毛込毛硬く猪糞まゝの種つゝながるゝものといふは
 りり赤藩までけ赤葉といふものより上等とやせさ赤
 く稗淡江く面白し此作 白京 又青白 楊兒 海馬毛

- | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|------|----|----|
| 鱈子 | 大堂 | 石堂 | 大實 | 延 | 赤小實 | 白耜 | 石子 |
| 小節 | 双無 | 小塩蔓 | 霜被 | 白笑 | 四十床反 | 佐安 | |
| 香寄 | 十節 | | | | | | |
- 音不 是との俗播わ

晩稲田ハ刈種て露やげよあこししくえゆめ
 が刈るはよ遅くするよあこししくえゆめ
 懶とい甲斐あこしゆめよあこししくえゆめ
 のまことおれいしゆめよあこししくえゆめ
 稲のおこれいしゆめよあこししくえゆめ
 ぐしともはるいしゆめよあこししくえゆめ

云地土高下燥溼不同而同於生物生物之性雖同而所生
之物有宜有不宜焉土性雖有宜不宜人力亦有至不至人
力之至亦或可以回天况地乎宋太宗詔江南之民種諸穀
江北之民種秔稻真宗取占城稻種散諸民間是亦大易裁
成輔相以左右民之一事今世江南之民皆雜時諸穀江北
民亦兼種秔稻昔之秔稻惟秋一收今又有早禾焉二帝之
功利及民遠矣夫何是宜乎今日之急と極いつ時の利
と資の術とらいつとも凡土宜を天地の習おのり
南の突あわれハいゝと人力と令しとりとも終
ハ回天の術と致し物と極し易簡と就ハ重遠と

と成迂闊とてふは迂とてふは迂り迂世文祿の頃始
て甘藷と蕃船と獲るより西南の地ハ山野肥磽と
ふく播殖して百姓以下今日之急と極ふりの急ふる
るハふしとるまでと糯米のせと羸羨とハ何事ぞ甘
藷のたとはハ其種播き易簡して水田の耕作ハ大や
且旱潦風虫と急るの患とゆる稲種イナの耕耘ツリカハ大や
にあり起るる急とあやぬし又稲ハ不熟とも當年ハ
甘藷土生ると一方よみありともあると
し凡むり甘藷の類ありとて知種とるると何とぞ
よと文ハ乃その急と極ふりかば終よ知て取を

るものかある所をみるんものど一方よりれハ一方の
しはふしむれは漢書は佛書とつらいつらいつら
く傳深り井落米とを烟葉とあり下痢までつら入て此
よよしと喜ば彼ふハあふととと願ひる勿為禍先勿
為福始夫禍先誠不可為矣福始亦不可為と此の傳より
只何事とじりしゆよりよまハはまじ宋太宗真宗あ
との占城稲は獲る事と利氏の第一とやほとも地の
さよしきよよとや凡稷稻の春秋と度て滋登ぬる是れ
方水土無魚のおとよと乾中晚稲と實よく味とこれ
りるハあし我の沖繩ハ大寒よ種撒て四五五月ハいれ獲

収むより新方へ嶺は海見島ハ六月よ獲よりより
まはり方一ちりき益扱島ハ七八月よかりさふ逆よ部
方へりてハ十月の末よもれとほるく此其氣候の最
後ハ望月一月をとりね差どかし天地の空暗夜第
て地物と相無むハあづまやれハそ水土にかあそ
ぎはものはいりちど人カとせるとも性感偏て
利益と少き理ありまは月よれ病は南島の稲ハと
とより此方よと子孫ハ皆脆弱て味清くさあぐと西
土蕃地の稲米のおとしはまじ耕作ハも生可節と違へ
ど天性よ此の地とあつざらハ時高来と安まらと



秣稻

法橋洞龍美清筆

餅米

新撰字鏡

餅乃米

和名

毛知志福

餅稻

稗

音悞俗作糯

糯

和名

鈔引蒼頡篇

糯米

徐

音徒爾

推

廣韻

稗

為

稻也詩豐年多稂天工開物稻種黏者米曰糯

開物稻種黏者禾曰稂

子固請種稂乃使一百五十畝種林五十畝種稂

內則云菽麥黃稻黍梁秫惟所欲七者以稻與秫稱秫為糯

去て一是也我地もあつどと農業は勤めよおあしを
 以味よふれ利巧と知つては却て濃とあつと多し
 元耶律楚材每言興一利不若除一害生一事不若減一事
 と此の謂あり

稻、為、種、梗、即、執、洲、明、種、林、以、取、酒、
是、也、有、此、確、證、可、以、正、本、艸、之、誤、

大師古紀

蕃名クレーイスト

毛知モチハ粘氣ネリケ有りて物モノニ附ツきすの稈カサナリ
張チのハ引ヒキ粒リガ粘ネリも亦モおれし天工テンク田物テンモノ糯ネ米メの土ツチと粘ネリハ根ネ張チ

又保食ウケシキともいふ食シ亦モ毛知モチとつひしと云

海ウミをシハ今村イマムラ名ナノ餅田ホシタ餅ホシ

凡、糯ネ亦早中晩ハヤナカニの種タネあり多く中晩ナカニの二種ニシユあり糯ネハ軟ヤカク

山ヤマにて粒リ大オホあり西州セイシュにて早糯ハヤネとつひは七月シチグヒ比ヒ熱アツクむ餅ホシ

又保ウケきて最モトよし六十日ムソウカ亦早糯ハヤネありカ尾張オウザ微ホソさ

米メ長ナガく白糯シラネ微ホソさあり赤ベニ此コノ他ホカ五十餘種イソノチヨウシユの名ナ品シナそあ

て而糯ネハ多オホシさふし大畧オホシヤク膳脂テンシ深墨フカクミの濃ノリ笠糯カサネ稈カサ托ツカあ

微ホソあり稈カサ米メ共トモ白シラし松マツ穂ホ之ノ糯ネ粒リ細ホソく色イロ米メの形カタチ似ニたり餅ホシニ似ニたり

岩イハ摩マ葉ハ稀ヒラ饒ニギハヤヒ蔓マツル鶉ウツ鳥トリ古凡禮コバンレイ擇エリ穂ホ谷渡ヤノワタリ

落不待オチマタ岩越イハオコシ頸長クビナガ身陰ミナカゲ疏稀スハラ装毛ミツケ漆稻シシイネ粘ネ

泥田ニメタ坪瀬ツボセ重累カサナリ糯米ネメは農夫ノウブの利トクあり

といつとも虫ムシつまやうく又粘麻ネリマの属カク好ヨクと嘆ウツふとのふ

れハ多く仰オホシりづし赤アカ石イシ俵ヒラ米メ倉クラ上ウヘめて風味クシ健ツヨクし餅ホシニ

似ニりて脚タラシつよしといふ

成形圖説卷之十六

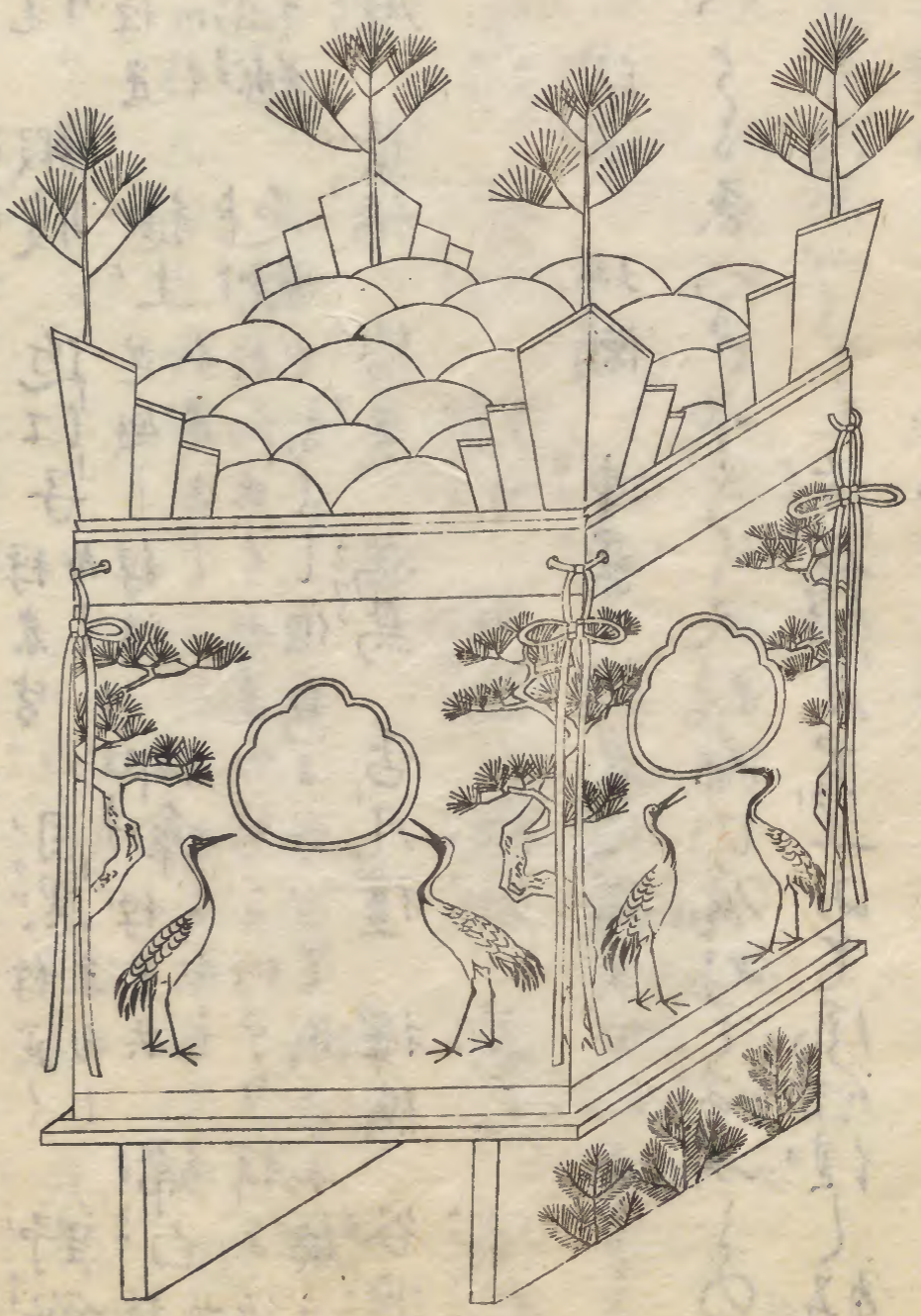
十七

国立公文書館

National Archives of Japan

延喜乃御宇近江國より大嘗會に供御ありし時

はらみ
乃屋
かたみ
の山
法々々
たれ
はらぬ
て々
尺ゆり君り子と結け



大伴黒主

糯米ハ乃御神子薦享の梁威に供給あり字鏡順鈔等に
餅の一字を毛知此と訓也又職人歌合よりわさせ
ば秋の田乃西の穡もあらねばにいつる山の深の月
今も知とのこゝハ畧るる也禮内則註に資稻餅也炊
米擣之以豆為粉糝資上也爾雅翼云合蒸則曰餅餅之則
以為表餌言夫正月元旦の禮節ハ神武天皇の御宇に
始め約す事本紀よりるる也歳首に餅と製て鏡
餅と稱ふは白神磐戸よりるる也
其御象鏡に備まりて祈りけるは再ハ磐戸の磐石といと
い佳例よりりて新玉の年立候る春の初はりの常時

月朔日以春餅為上供。○對類大全註麥米粉。又餅と加知年
 做成餅形如鏡入於爐內烘熟。蓋始于戰國。といふ
 といふ。とととと。とととと。とととと。とととと。とととと。
 この餅と食ハ揚子孫と。功徳はり。いふ。傳ハ揚子孫
 餅ハ本餅あり。山崎重加詩永言少彦名經濟起蒼生除
夕世間靜神風餅木馨少彦名ハ昂立條天
 神はり。本朝醫の祖あり蒼生永くとの遺澤。藤堂樂菴
 に頼ととて々々。むり。季冬本餅と祀ふたり。
 説子加知年ハ擲飯あり。と。何り俗ハ家鎮禱塵歌。貸
 糸と書ハ餅字なり。正月齒固餅ハ建武年中行事引江

次第抄曰齒謂人年齡也。齒固者延年固齡也。餅曰稱御節
 供是乎。按ハ俗所謂節供ハ。天朝佳節の供御と。いふ
 自由束サ中延喜式ハ節供の名々々。ぬ漁氏初まの巻子
 をか。の。してめ。の。つ。ま。り。よ。せ。て。子。年。の。餅。に
 志。す。ま。と。つ。い。又。枕。子。残。り。は。漢。葉。は。よ。も。い。と。也。了。齒。固
 の供。あ。り。して。け。り。い。た。め。は。東。鑑。ハ。齒。固。賀。け。事。あり。荆楚
 歳時記云元日食膠牙錫取膠固。○人生て後ハ餅と。い
 之義。と。い。ふ。も。數。々。と。い。ふ。わ。ざ。め。
賀と陳付らるる。天孫存藩竹屋の宮里。
 して。擲。飯。は。り。し。く。も。う。何。子。釀。天。甜。酒。又。為。飯。嘗。之。と。本。紀
 よ。志。す。ま。と。つ。い。地。好。ま。と。之。と。産。書。と。い。ふ。通。證。曰。凡。皇。子

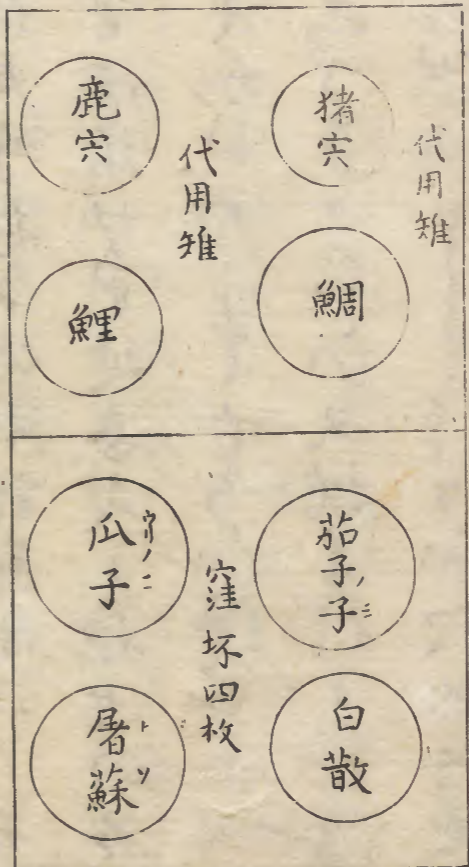


類聚雜要鈔

供御脇御齒固六本立

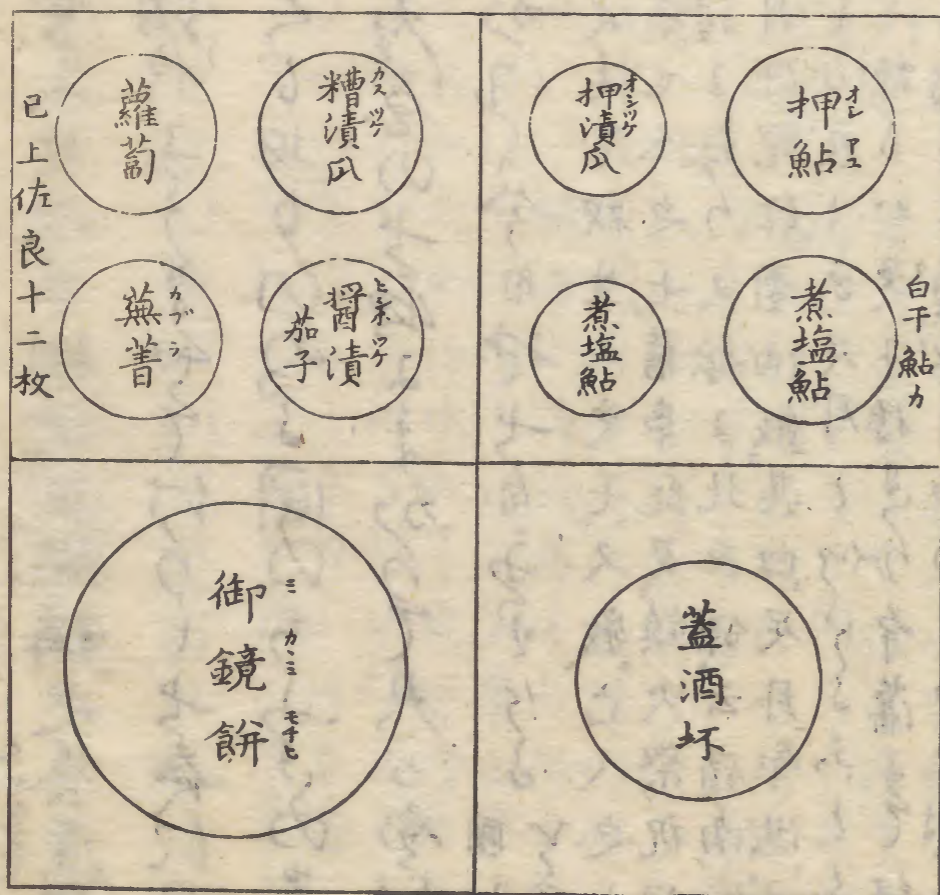
三箇日同前也
御臺盤所供之

近代鯉雉鯛鱸如此盛之



料 但不入自内膳司者也

料 但不入自内膳司者也



置鏡餅上物

讓葉一枚 蘿蔔一株

押鮎一隻 三成橘一

枚 但近代一
成用之

御鏡餅三枚 日別一枚 自

藏人所出納渡之

此佗の用度餅子預

ざゝハ尙あり

俗と見えしに神宮如御集らるればせし時なるあり
 その神の法ゆきよりつるころ江家次第曰有常
 阿未加律土器撤て其後供比々奈阿未加律ハ春雨釧
 天兒と書るり即天目勝ゆて鈿女命とあはるる故事とい
 つる源氏談曰十^ト又御ゆる人ハいふ遊ハ忌けり者
 拈子我曰さし方此^{アキ}地ゆふ持の湖登日次紀
 上已雖遊存是贖物の義ゆて所謂這兒ハ解除の撫物
 又以此奈記ハ比々奈といふ少考名といふ
 る名と省くるなり少考名ハ顔解抄少とせしむる
 此神と祭ハ皆細き事と用る蓋解除の遺法也
 通典云後漢三月上

漢三月上

己官民皆儻^ト于東流水^ニ齊以三月三日曲水會古禊祭也今
 相兼為百戲之具彫弄巧飾増損先常文昌雜録云唐歲
 時節物三月三日則有^キ綵人^ノ
 偶^{カト}々々^シあまて^テ大きき^ク美^シく^キび^バや^ラち^ラと
 競^シ其^ノ伎^ヲ嫺^ハり^シも^ウり^ノあ^がり^わか^りて^ハ糖^ハ餠^ノ肉^ノ餠^ノ壹^ニ是^ト
 巧^クと^テ撫^メめ^ル珍^キと^テ撰^テて^ハ客^ヲを^テ夸^シり^ト人^ヲを^テ撰^テて^ハと^クく^シる^ノ日
 の^ノみ^めと^テ地^ノを^テえ^りぬ^りハ^ハ其^ノ費^トと^テより^ハ浄^ノ室^ノの^ノあ^まり
 後^ニ嬰^ノ兒^ノの^ノ時^ヨり^シて^ハ其^ノ弄^ヲ止^ミむ^ルの^ノ暇^ニに^ハ踊^ルと^シて
 然^レに^ハ趨^クし^るの^ノ嫌^トと^シて^ハ源^氏の^ノ時^ニは^ハあ
 ま^りハ^ハ遊^ハハ^ハ忌^けり^トと^シて^ハ又^ハ紳^士書^ヲよ^りあ^はれ^ハハ^ハあ
 十^ニ三^日まで^ハ天^皇未^皇の^ノ事^トあり^マす^ハ今^ハハ^ハ女^子あ^まり

よらうらむぐらうらうら老^{オビ}ちもあんざう貴女房の御飾あど
よのせんいといとさあし唯^{シラコ}道^{シラコ}見^{シラコ}ハ小く細く膳^{シラコ}巻^{シラコ}ハ
草^{シラコ}徳^{シラコ}き^{シラコ}ん^{シラコ}い^{シラコ}そ^{シラコ}三日の袂^{シラコ}と^{シラコ}清^{シラコ}ら^{シラコ}は^{シラコ}潔^{シラコ}め^{シラコ}ぐら^{シラコ}と^{シラコ}水^{シラコ}の^{シラコ}為^{シラコ}の^{シラコ}
^{アヤ}明^{シラコ}も^{シラコ}う^{シラコ}く^{シラコ}ゆ^{シラコ}く^{シラコ}う^{シラコ}は^{シラコ}ぬ^{シラコ}く^{シラコ}や^{シラコ}孔子と暮春浴乎沂^{シラコ}風乎^{シラコ}
舞雩^{シラコ}ま^{シラコ}ゆ^{シラコ}た^{シラコ}され^{シラコ}ハ其量の一^{シラコ}事^{シラコ}ま^{シラコ}か^{シラコ}こ^{シラコ}う^{シラコ}ざ^{シラコ}う^{シラコ}ゆ^{シラコ}
え^{シラコ}あり^{シラコ}ま^{シラコ}○^{シラコ}楨^{シラコ}餅^{シラコ}ハ五月五日^{シラコ}ハ^{シラコ}楨^{シラコ}葉^{シラコ}と^{シラコ}て^{シラコ}染^{シラコ}て^{シラコ}つ^{シラコ}こ^{シラコ}煮^{シラコ}
て^{シラコ}粽^{シラコ}とし^{シラコ}節^{シラコ}供^{シラコ}もの^{シラコ}とい^{シラコ}し^{シラコ}ハ^{シラコ}供^{シラコ}御^{シラコ}と^{シラコ}あ^{シラコ}ハ^{シラコ}加^{シラコ}志^{シラコ}波^{シラコ}
と^{シラコ}り^{シラコ}あ^{シラコ}れ^{シラコ}珠^{シラコ}と^{シラコ}葉^{シラコ}の^{シラコ}香^{シラコ}と^{シラコ}か^{シラコ}ぐ^{シラコ}け^{シラコ}く^{シラコ}お^{シラコ}あ^{シラコ}れ^{シラコ}
揚^{シラコ}の^{シラコ}む^{シラコ}く^{シラコ}ま^{シラコ}ぬ^{シラコ}あ^{シラコ}ま^{シラコ}代^{シラコ}の^{シラコ}あ^{シラコ}り^{シラコ}け^{シラコ}さ^{シラコ}ら^{シラコ}ら^{シラコ}て^{シラコ}
い^{シラコ}と^{シラコ}め^{シラコ}て^{シラコ}こ^{シラコ}し^{シラコ}上^{シラコ}方^{シラコ}ハ^{シラコ}穉^{シラコ}あ^{シラコ}る^{シラコ}と^{シラコ}東^{シラコ}の^{シラコ}方^{シラコ}ハ^{シラコ}端^{シラコ}を^{シラコ}け^{シラコ}

必^{シラコ}この^{シラコ}もの^{シラコ}の^{シラコ}初^{シラコ}く^{シラコ}ら^{シラコ}う^{シラコ}い^{シラコ}と^{シラコ}く^{シラコ}ま^{シラコ}と^{シラコ}あ^{シラコ}り^{シラコ}の^{シラコ}茅^{シラコ}卷^{シラコ}ハ^{シラコ}
後^{シラコ}の^{シラコ}俗^{シラコ}も^{シラコ}も^{シラコ}魚^{シラコ}し^{シラコ}は^{シラコ}戸^{シラコ}沙^{シラコ}子^{シラコ}と^{シラコ}り^{シラコ}の^{シラコ}ま^{シラコ}我^{シラコ}
淡^{シラコ}曰^{シラコ}嘉^{シラコ}祥^{シラコ}の^{シラコ}御^{シラコ}祝^{シラコ}ハ^{シラコ}奈良^{シラコ}の^{シラコ}帝^{シラコ}の^{シラコ}大^{シラコ}田^{シラコ}の^{シラコ}頭^{シラコ}ち^{シラコ}い^{シラコ}より^{シラコ}年^{シラコ}
あ^{シラコ}ま^{シラコ}と^{シラコ}又^{シラコ}ハ^{シラコ}陽^{シラコ}年^{シラコ}ま^{シラコ}あ^{シラコ}ら^{シラコ}の^{シラコ}ぬ^{シラコ}陽^{シラコ}氣^{シラコ}志^{シラコ}る^{シラコ}く^{シラコ}人の^{シラコ}兔^{シラコ}も^{シラコ}
志^{シラコ}む^{シラコ}む^{シラコ}り^{シラコ}思^{シラコ}お^{シラコ}う^{シラコ}ハ^{シラコ}カ^{シラコ}名^{シラコ}少^{シラコ}彦^{シラコ}名^{シラコ}園^{シラコ}韓^{シラコ}神^{シラコ}ハ^{シラコ}疫^{シラコ}廢^{シラコ}と^{シラコ}つ^{シラコ}
り^{シラコ}と^{シラコ}ざ^{シラコ}と^{シラコ}せ^{シラコ}ま^{シラコ}ハ^{シラコ}も^{シラコ}も^{シラコ}清^{シラコ}濁^{シラコ}な^{シラコ}ら^{シラコ}せ^{シラコ}と^{シラコ}も^{シラコ}い^{シラコ}ひ^{シラコ}く^{シラコ}り^{シラコ}
あ^{シラコ}は^{シラコ}あ^{シラコ}ら^{シラコ}ひ^{シラコ}て^{シラコ}天^{シラコ}長^{シラコ}地^{シラコ}久^{シラコ}田^{シラコ}民^{シラコ}安^{シラコ}樂^{シラコ}と^{シラコ}漂^{シラコ}せ^{シラコ}ら^{シラコ}あ^{シラコ}ら^{シラコ}と^{シラコ}な^{シラコ}
り^{シラコ}志^{シラコ}る^{シラコ}よ^{シラコ}仁^{シラコ}明^{シラコ}天^{シラコ}皇^{シラコ}の^{シラコ}承^{シラコ}和^{シラコ}十^{シラコ}四^{シラコ}年^{シラコ}の^{シラコ}次^{シラコ}二^{シラコ}神^{シラコ}の^{シラコ}侍^{シラコ}つ^{シラコ}
お^{シラコ}お^{シラコ}し^{シラコ}て^{シラコ}六^{シラコ}月^{シラコ}十^{シラコ}六^{シラコ}日^{シラコ}ハ^{シラコ}え^{シラコ}や^{シラコ}こ^{シラコ}ま^{シラコ}ち^{シラコ}ひ^{シラコ}人の^{シラコ}剛^{シラコ}膚^{シラコ}よ^{シラコ}入^{シラコ}
て^{シラコ}惱^{シラコ}と^{シラコ}ひ^{シラコ}く^{シラコ}し^{シラコ}十^{シラコ}六^{シラコ}日^{シラコ}の^{シラコ}敷^{シラコ}よ^{シラコ}ま^{シラコ}は^{シラコ}つ^{シラコ}て^{シラコ}餅^{シラコ}十^{シラコ}六^{シラコ}日^{シラコ}ハ^{シラコ}本^{シラコ}

の實も生數よそののし百りの机のといとあこま
 つるしきさどいながやとつるしととの志まふしよ
 甲同出度律事とて改えありて嘉祥と何る事めさせお
 ちて六月十日ある事いとせまふるよそ
 こし民安く國をなれハ此志とつとめて尚更おこな
 せむあふらふしとそとせまふ餅とて少産物と祀
 る事ありあれハ三日の日のもこ祭とおれく蓋嘉
 祥中記言ありし案三月よ母子徳あまがゆあると六月
 十日とすは遂よ後の係ともなむしと也 抄中よそ
 はか川とつるあるとりや實は納涼會ありとともあ

甲 日次紀曰嘉祥 禁裏盛五色餐并諸肴於西土器各
 紙蓋以十六錢求得物之遺意也 按世諺問答東見記等
 六文とん食物と買て供侍とせしは踐昨の後伴の事と
 傳物とす此日よ行もよしとせしは踐昨の後伴の事と
 とすあし重なるるさし又夏の土王餅と食ふと
 歳時記よ六月伏日宜作湯餅食之名曰辟惡又和
 樂部よ嘉祥樂あり太田磨也所よりと云 ○豚餅
 ハ政事要畧引延喜藏人式曰十月初亥日内藏寮進殿上
 男女料餅年中行事秘抄よ柿白杵とて以て於朝餉方卷
 しの御儀又令為猪子形以綿裹之柿夜御殿邊四角蜻蛉
 日記よきうすいの御いうるおのころとつくりぬ
 記せよ万世とよばふ山づるおのころとつくりぬ

ふるよるいふくし

日次紀曰禁裡玄猪餅賜赤白黒之小資餅於羣臣有差也女中御下頭

伊豫局調進搗餅木臼及木杵今日春謂率著搗与著訓同祝言其就福也而春餅者敷裳曰下奏相歌蓋猪者多子故此日為餅以祈子孫蕃息也凡十月有三亥日則始用小資及銀杏忍草中用小資及菊花忍草終用小資及楓葉忍草凡所賜之餅色典侍黒者内侍白者以下赤者又曰翌戌日攝津能勢加土大夫献餅於皇宮及上皇宮稱之能勢餅皆恒例矣○子のころ餅の事源氏流は福のあはいなり

まねくもつりもむ三り一もくをいんがしとけり子

のこはいくもつりもねくせんともと本日定日餅と翌

日子念ふもつりあり又三り一ハ四杯といふ錢あふく中

此より四の字ともぐかりて三り一とハいひし史記晋悼夫傳

よ於今三之一也と本朝文粹は餅田三之一ともいひしよ存つる小右記天元元年四

月十日左大臣頼忠公一女入内道子十二日子始参上殿

下同参餅四種盛銀盤今ハ元服あともつりとの今物

てよも餅盛あつり四季は十月亥の子りらひぬ

しけるハ十三のちらぬよのつりハ十二をま

つりてはるもつりもつりよの清もぬれさせお

いしほしほいさざとおよばしめてつりおのくを

し流りぬ此あをさりよハさほしけりとの見及も

とと佃鳥の園より始て亥の子りらひめてつりよ

と國史よけり此月の清事とも子夜行といふ書よハ

十月ハ亥の月めて亥の日用らるあを愛ハ子と一年

の月の教生うるふよハ十三うみてめてさくあはし
 ますていみしまのふればとておこまひさしし付
 る掌中曆子亥子の餅七種の粉と合て作る七種の粉ハ
 大小豆サケ豆胡麻粟柿糖アメありせ流問答ヲ十月上旬の亥日
 の餅の事ハ内蔵意ニよりほほ其感獲の取最重ニありより
 げんてうといふ三ヨトノモチヒは是今の十月亥猪の俗節といん
 えさり〇三夜餅ハ中右記寛治五年十一月二日女御入
 内之後有三夜餅事件餅民部卿所被調進也是高年之人
 所役者主上入御帳ニ之後関白殿取之令進〇季子餅ハ臘
 月朔日の朝アジタに食ふイハヒは餅なり故よ此の朝と餅ヒキ月ツキ立とい

ふ又川カハは餅モチもど留トり〇枕冊子にくさこのひる
 きともいふと物も取れてといふひるきともい若
 ここのつもちとつねと也と注やり〇柿餅ハ白柿と
 眷て餅とありあり瀬朝樂事云正月朔日簽又片餅堅餅
栢枝於柿餅以大橘承之
 凍餅シニあどつふ多し又赤豆と擦ヌシて煮ヌクる餅とせんさい
 餅といふハ善哉餅ニとて長崎唐人館ヤシキハ肴板と出して
 賣買と梅村裁筆ニ中在餅と書ぶさいいつるハあふ
 〇或人曰七月中元靈祭マニモウリの築ダシと徒ナク海川ウミは流し捨ハ
 せんふしむべくくは路頭ミチノヘの乞西モイモウヒと興ノボへくくんと
 信シの施セ餓鬼ガキあつんがし



陸稻



白田稻

野稻

岡稻

早稻

岡穂

陸稻六書故○淵鑑類函稻性宜水亦有同類而陸種者謂
 六月至九月獲北
 方地寒十月乃獲
 早稻齊民要術
 早占農書
 占城禾國朝要錄

黑穀米
 類藁按子綱目子占城稻
 占稻本艸
 雷稻西事
 尖米
 黃秣以上

農書及爾雅翼字考
 稲の一名と云ふハ浮
 と云ふ

藩名
 ヲクケルリスト

岡稻ハじり
 皇孫瓊々杵尊襲の高千穂峯へ天降玉

ひし時深霧にがたへ
 暎蒙一哉稻穂ととて打撒玉

成形圖說卷之十六

しつは忽に開明なるふと我は好むるしよりの高千穂峯
の君ハ^{イテキ}あま^{イテキ}るるま^{イテキ}り今其地は陸福多く^{オラ}けるふといふ
ふと日向風土記も載り又その峯は^{タケ}雲霧常より^{タケ}おの
るる^{タケ}高千穂島嶽といふと^{タケ}りや^{タケ}此高千穂峯^{タケ}者今霧
らるは^{タケ}同國曰杵郡高千穂山^{タケ}らるま^{タケ}ざれて云^{タケ}あめ
り^{タケ}け^{タケ}國郡を^{タケ}築ら^{タケ}に割^{タケ}られし^{タケ}後^{タケ}より^{タケ}大^{タケ}むりし^{タケ}此
地面とおの^{タケ}胸^{タケ}して^{タケ}き^{タケ}お^{タケ}し^{タケ}量^{タケ}る^{タケ}も^{タケ}夫^{タケ}古^{タケ}事^{タケ}記^{タケ}高
千穂之^{タケ}久^{タケ}士^{タケ}布^{タケ}流^{タケ}多^{タケ}氣^{タケ}と^{タケ}志^{タケ}し^{タケ}書^{タケ}紀^{タケ}ハ^{タケ}襲^{タケ}之^{タケ}高^{タケ}千^{タケ}穂^{タケ}峯^{タケ}
一^{タケ}ハ^{タケ}倭^{タケ}之^{タケ}峯^{タケ}と^{タケ}も^{タケ}亦^{タケ}穂^{タケ}日^{タケ}と^{タケ}も^{タケ}穂^{タケ}觸^{タケ}と^{タケ}も^{タケ}又^{タケ}々^{タケ}り^{タケ}久^{タケ}士^{タケ}
布^{タケ}流^{タケ}ハ^{タケ}穂^{タケ}日^{タケ}引^{タケ}ら^{タケ}る^{タケ}言^{タケ}あ^{タケ}り^{タケ}又^{タケ}具^{タケ}高^{タケ}千^{タケ}穂^{タケ}と^{タケ}ハ^{タケ}皇^{タケ}孫^{タケ}乃^{タケ}
別^{タケ}宮^{タケ}所^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}も^{タケ}て^{タケ}々^{タケ}の^{タケ}京^{タケ}城^{タケ}平^{タケ}安^{タケ}城^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}る^{タケ}も^{タケ}い^{タケ}し^{タケ}因
皇^{タケ}宮^{タケ}所^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}も^{タケ}て^{タケ}々^{タケ}の^{タケ}京^{タケ}城^{タケ}平^{タケ}安^{タケ}城^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}る^{タケ}も^{タケ}い^{タケ}し^{タケ}因
其^{タケ}地^{タケ}域^{タケ}の^{タケ}左^{タケ}右^{タケ}と^{タケ}ハ^{タケ}あ^{タケ}り^{タケ}て^{タケ}高^{タケ}千^{タケ}穂^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}し^{タケ}山^{タケ}嶽^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}と^{タケ}
の^{タケ}こ^{タケ}ま^{タケ}づ^{タケ}べ^{タケ}づ^{タケ}く^{タケ}は^{タケ}さ^{タケ}て^{タケ}高^{タケ}千^{タケ}穂^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}し^{タケ}山^{タケ}嶽^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}と^{タケ}
隅^{タケ}の^{タケ}係^{タケ}て^{タケ}桓^{タケ}武^{タケ}紀^{タケ}と^{タケ}霧^{タケ}島^{タケ}の^{タケ}事^{タケ}と^{タケ}贈^{タケ}於^{タケ}郡^{タケ}曾^{タケ}乃^{タケ}峯^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}し^{タケ}山^{タケ}嶽^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}と^{タケ}
て^{タケ}古^{タケ}の^{タケ}添^{タケ}之^{タケ}峯^{タケ}高^{タケ}千^{タケ}穂^{タケ}峯^{タケ}久^{タケ}士^{タケ}布^{タケ}流^{タケ}多^{タケ}氣^{タケ}と^{タケ}り^{タケ}せ^{タケ}し^{タケ}山^{タケ}嶽^{タケ}の^{タケ}名^{タケ}と^{タケ}

霧島嶽ふるを考へよ又此東峯に神代靈牙一枚と有
吾津ハ元曆申缺折しと禁崇て新嶽権現社と云即神
體也今山に植ハハ秘よて鐔の^{タケ}下に^{タケ}長^{タケ}真^{タケ}大^{タケ}眼^{タケ}の^{タケ}像^{タケ}と^{タケ}
大乃己隆出に然と天^{タケ}明^{タケ}初^{タケ}池^{タケ}田^{タケ}某^{タケ}者^{タケ}模^{タケ}作^{タケ}て^{タケ}傍^{タケ}子^{タケ}立^{タケ}り^{タケ}
此と除去し事^{タケ}の^{タケ}所^{タケ}に^{タケ}き^{タケ}こ^{タケ}以^{タケ}通^{タケ}證^{タケ}に^{タケ}吾^{タケ}先^{タケ}族^{タケ}の^{タケ}事^{タケ}と^{タケ}撰^{タケ}註^{タケ}
西遊記に以偽牙尚在よし著せ^{タケ}球^{タケ}と^{タケ}亦^{タケ}託^{タケ}傳^{タケ}と^{タケ}撰^{タケ}註^{タケ}
皇孫西州子^{タケ}條^{タケ}條^{タケ}て^{タケ}邊^{タケ}疆^{タケ}を^{タケ}理^{タケ}め^{タケ}而^{タケ}姓^{タケ}と^{タケ}安^{タケ}し^{タケ}よ^{タケ}い^{タケ}福^{タケ}植^{タケ}と^{タケ}
おて々も種うるわざ^{タケ}は^{タケ}撒^{タケ}さ^{タケ}は^{タケ}ら^{タケ}る^{タケ}し^{タケ}よ^{タケ}そ^{タケ}
百餘始て天津^{タケ}陰^{タケ}日^{タケ}御^{タケ}蔭^{タケ}を^{タケ}任^{タケ}作^{タケ}お^{タケ}ま^{タケ}る^{タケ}そ^{タケ}々^{タケ}ま^{タケ}く^{タケ}麻^{タケ}く^{タケ}蒙^{タケ}
し胡^{タケ}涼^{タケ}夢^{タケ}夕^{タケ}深^{タケ}霧^{タケ}を^{タケ}ら^{タケ}へ^{タケ}忽^{タケ}と^{タケ}冨^{タケ}る^{タケ}信^{タケ}て^{タケ}恰^{タケ}と^{タケ}青^{タケ}霄^{タケ}と^{タケ}守^{タケ}る^{タケ}
う^{タケ}お^{タケ}と^{タケ}王^{タケ}澤^{タケ}と^{タケ}被^{タケ}り^{タケ}は^{タケ}か^{タケ}く^{タケ}流^{タケ}り^{タケ}は^{タケ}ま^{タケ}し^{タケ}よ^{タケ}わ^{タケ}さ^{タケ}て^{タケ}是^{タケ}撒^{タケ}

裁られしハ陸稲ありてその地は霧島ノ地ニ
 ハ歳々播種をいさぎよくて自生此陸稲多しといふ事あり
 紀中此文よき証し且昔その地乃民相傳つて其種とし
 と豊島稲の名を存しあるハ少縁ありぬ事あるべし
 今よむらまて西州の農夫ハ稲の初穂をよみて必霧島神
 廟ニ献じ俗の恒ともいふ事と所由あることありし此
 吾邦の陸稲よりあつたれ始りて按西土の
 ありハ皆陸稲なること本州時珍云古者惟下種成畦故
 祭祀謂稲為嘉蔬此陸稲の證なり夫下種成畦といふ
 ハ汲渾の中ニ畦とありていふことありて又詩

周頌ニ豊年多稼といふこと稌ハ稻利下濕と云わぬ稌ハ
 してハ下濕といふことありていふハ水田の
 稲といふことあり

此もの形狀全く水稲を象するは早晩赤白及糯の種
 類各ありたりハ八十八夜の前夜に撒て八月中旬に
 刈取とのよし霧島野稲ハ稷糯をいふ也 芒稷黒く 葉
 蒼芒長く稗米せよ白し此種ハむら 穠夫ある葉籐と
 金花いさぎよし山へおろしとのあり亦叶多し後子葉
 よ知りたるよし葉籐の中より野稲の 御實子 芒あり
 芒ありしより此目ありていふ
 鮮百合 芒長しと云 黒糯 芒長く稗馬 此お 吉野 乾
 飯 両節 日下 萩子 刈春等の種多し 野之 稲
 秘

凡苗二三寸ナリも浅ナリくする時クサヤカより耘ツカ耕ツカして美シヒ保ヒ力カは
 一糞フ十シ分フ水ミと澆ツクをシ肥ヒるハ葉ハのミ茂シて穂ホぬシど又
 早トホキやハぬミと澆ツクるハ僻トホキ遠トホキりテ僻トホキ遠トホキりの地ハあリづシ
 勤チて土チおシのシせシよシふシのハはマ麦シれシりヤうシ芝シまシらシるハ
 穫カ収リハハ冬ノ福ノ導シと向し○農業全書曰ク野稻の種と水
ヒタ浸スハハ二三日ホしテ瓦アる日よシくハのハしハ
ハヒユらクとシて反肥ト用ハて横筋ト涼クまリあリの前是ハ
トにシて土と水とをあラしシ
今按ズ是ハ農政全書
種麥ト治地畢豫浸一宿然後打潭下子用艸灰和水澆之每如
鋤草一次澆糞水一次至於三脚秀矣とハのハ加シ解述
凡野稻とハ滋子炊法ハ三脚秀矣とハの加シ解述
何れハけレ何レれハ滋子炊法ハ三脚秀矣とハの加シ解述



私アタリ

陸私トホシ

赤米 眠寤集子阿伎米とつもの此種と阿是こげ商米

るべし今俗より大冬米といつどそ種ハ其の一種あり

の赤米ハもとより南島の土産にて炎徴の地より出

産るゆのハその色多くハ赤紅ありと天然ありき

直安 和字彙蓋直賤ふきと **赤物** 此の穀乃下

ハ之きと海に食て何やせきの後様も新撰字鏡ハ

餉の字と登毛々々志と訓ハ一説ハ田于と心手折

の俗名あるべし

山音仙或作粘粘細○爾雅翼一種曰粘比於稷米小而尤

私不粘其種甚早今人號粘為早稻○揚氏方言江南呼稷

為粘○本州時珍云粘亦稷屬之先熟而鮮

明者品類亦多有赤白二色與稷大同小異

月收者曰 **赤種** 字典紅

菊花和

此の赤白二種阿りといつども俗通して赤米赤物と

フタトナリ

留青日

札云粘

花飯言飯紅潤之色

蓋亦赤米飯あり

赤白せき堅脆て味為淡く早く饑

さしあのものむしよりの西州の浹潭沮洳の田より

る所なく地邦より稀少なり農政全書云稷之小者謂

之私其粒細長而白味甘而香九月而熟是謂稻之上品曰

箭子其粒大而芒紅皮赤五月而種九月而熟謂之紅蓮其

粒尖色紅而性硬四月而種七月而熟曰金城稻是高仰之

所種松江謂之赤米乃穀之下品湖州録云師姑杭言其無

芒也四明謂之矮白其粒赤而稔芒白此等陸私稻とんえ

より且農政全書より所謂粒細長而白味甘而香といふ又

成形圖說卷之十六



炊蒸米圖

授時通考云、白秈トホシ一小秈、玉斑秈、齊頭白、六月白、白ふどり、
 りの疑トホシハ、白逆米トホシある、然シ、金城稻トホシの、とまトホシハ、赤逆米トホシ
 ろトホシハ、接トホシ子登凡志トホシの凡志トホシハ、蒸トホシとトホシハ、語トホシの轉トホシは、ある、此
 のの稔稻トホシの掬搗トホシ米トホシとトホシハ、ちトホシづトホシハ、煮トホシ蒸トホシて米トホシとトホシハ、
 よりトホシのトホシとトホシハ、蒸米トホシとトホシハ、又接トホシ子登トホシは、焼トホシとトホシハ、通トホシつり俗トホシ
 物トホシとトホシハ、登トホシとトホシハ、たトホシくトホシとトホシハ、登凡志トホシハ、即トホシ燒トホシ蒸トホシとトホシハ、
 火トホシとトホシハ、やトホシとトホシハ、せトホシとトホシハ、なトホシとトホシハ、因トホシ蒸トホシがトホシは、せトホシとトホシハ、
 ばトホシとトホシハ、ちトホシとトホシハ、なトホシとトホシハ、なトホシとトホシハ、なトホシとトホシハ、なトホシとトホシハ、
 どトホシとトホシハ、磨搗トホシとトホシハ、まトホシハ、穀トホシの利トホシは、まトホシとトホシハ、米トホシ粒トホシ多トホシくトホシ、
 耗トホシもトホシハ、早くトホシ駐トホシカトホシ必トホシ蒸トホシ磨トホシとトホシハ、まトホシとトホシハ、其トホシ蒸トホシのトホシ、
 夫トホシ費トホシがトホシ、ゆトホシとトホシハ、るトホシとトホシハ、多トホシくトホシ、乾トホシ磨トホシとトホシハ、せトホシとトホシハ、
 如トホシとトホシハ、此トホシとトホシハ、あるトホシ、上トホシ入トホシ

の時を^{イシヤシ}懸^{イシヤシ}賃^{イシヤシ}とくを^{イシヤシ}納^{イシヤシ}るあり 今俗に唐千あり 又船来
 の種を^{カラ}唐^{カラ}と^{カラ}おし^{カラ}赤^{カラ}と^{カラ}ほし^{カラ}と^{カラ}ふ^{カラ}との^{カラ}何^{カラ}も^{カラ}存^{カラ}名^{カラ}多^{カラ}伊^{カラ}登^{カラ}
 知^{カラ}是^{カラ}々^{カラ}の大^{カラ}冬^{カラ}米^{カラ}也^{カラ}と^{カラ}う^{カラ}は^{カラ}と^{カラ}え^{カラ}且^{カラ}何^{カラ}の^{カラ}所^{カラ}乃^{カラ}赤^{カラ}米^{カラ}と^{カラ}混^{カラ}し
 て^{カラ}統^{カラ}て^{カラ}大^{カラ}唐^{カラ}米^{カラ}と^{カラ}し^{カラ}唐^{カラ}米^{カラ}と^{カラ}し^{カラ}ふ^{カラ}て^{カラ}占^{カラ}城^{カラ}稻^{カラ}と^{カラ}混^{カラ}濁^{カラ}と^{カラ}る^{カラ}と
 の^{カラ}は^{カラ}播^{カラ}ざ^{カラ}りの^{カラ}を^{カラ}し^{カラ}と^{カラ}り^{カラ}大^{カラ}唐^{カラ}米^{カラ}ハ^{カラ}大^{カラ}冬^{カラ}米^{カラ}の^{カラ}混^{カラ}字^{カラ}あり
 南^{カラ}産^{カラ}志^{カラ}引^{カラ}閩^{カラ}中^{カラ}記^{カラ}云^{カラ}秋^{カラ}種^{カラ}冬^{カラ}熟^{カラ}曰^{カラ}晚^{カラ}稻^{カラ}歳^{カラ}一^{カラ}熟^{カラ}者^{カラ}曰^{カラ}大^{カラ}冬^{カラ}本
 州^{カラ}時^{カラ}珍^{カラ}云^{カラ}秬^{カラ}似^{カラ}稷^{カラ}而^{カラ}粒^{カラ}少^{カラ}始^{カラ}自^{カラ}閩^{カラ}人^{カラ}得^{カラ}種^{カラ}於^{カラ}占^{カラ}城^{カラ}國^{カラ}其^{カラ}熟^{カラ}最
 早^{カラ}六^{カラ}七^{カラ}月^{カラ}可^{カラ}收^{カラ}今^{カラ}此^{カラ}方^{カラ}一^{カラ}船^{カラ}来^{カラ}と^{カラ}る^{カラ}もの^{カラ}う^{カラ}ら^{カラ}大^{カラ}冬^{カラ}米^{カラ}一
 二^{カラ}種^{カラ}よ^{カラ}こ^{カラ}と^{カラ}は^{カラ}歲^{カラ}葉^{カラ}異^{カラ}と^{カラ}稻^{カラ}と^{カラ}閩^{カラ}種^{カラ}と^{カラ}り^{カラ}獲^{カラ}り^{カラ}又^{カラ}一^{カラ}種^{カラ}唐^{カラ}
 之^{カラ}と^{カラ}採^{カラ}と^{カラ}る^{カラ}もの^{カラ}は^{カラ}生^{カラ}葉^{カラ}菰^{カラ}の^{カラ}く^{カラ}長^{カラ}大^{カラ}あり^{カラ}て^{カラ}實^{カラ}多^{カラ}し

凡て野稻は備前の

此の氷陸二種あり 陸稲ハ 又稷米と一類にして米

赤きものと紅玉と云ふ茎穀並に常稲に彷彿あり但

芒類極て赤き耳 按和名鈔引廣志赤穰稲多し其の或帝

米稻蟬鳴稲等の 此の類あり又按廣志虎掌稲葉芒稲白

少所の赤穰稲ハ赤米多し 稲多し對へい農人ハその

苗と見え知り葉刈と手に扱去ると又之米ハ葉細く短

く最柔軟少して粒小く出しまはせまし偶々何と

のと長く軟あり又赤白兩種何れ白きものも多し芒

稷米とも白し或ハ稷ハ淡紅にして米の毛白と何

れ并に之と白之米と云ふ凡乾磨と蒸磨との実あり乾

磨らハ穀とお落せしき 磨りてふるふるあり 蒸磨ハ穀と俵
 子裏水よ漬し 瓶して蒸て 稗とあり ころもて 其製造の
 ちぐいみく 其性味 割柔大よ 蒸まり ○此もハ 早中晩及
 糯の種族 あり 三月中 苗代よ 耐つくる 也 率に 種穡の時
 節ハ 常稲よ 異あり ○此もハ 稗稲よ あり しかるが
 内 瘠土乃 淨田よ とも 植ふる きの されハ 四月の後 前よ 浸
 種十よハ ぬまてハ 苗代と かく 昂よ 実播して 稍白芽
 と 出と 耐つくる あり 生耕て 糶いろ の 法ハ 常とおれ
 しく 既子 種撒あん とも 耐つくる あり ころもて 田土と 干
 乾し 淨土よ 肥感ハ 馬糞と 晒し ひと 細やうに かけ 碎き

粉の ころもて 白沙よ 種子と 採ま せらる こと 夏粟い
 ころもて 〇凡田一畝よハ 種子一升の 積めし 番の
 ころもて 器よ へて 三指一撮 小して 五寸 皆 洋よ 撮つ ころもて
 あり 又 長手の 舟 渡り 感て 双の ころもて 種と 撮り 三
 尺 ちごも あり ころもて 投撒す ころもて 概 疏の 差さく 基の 秤
 の 懸る ころもて 耐つくる あり ころもて 敏ある ころもて 子 塊
 せつ ころもて 擲 桑よ ころもて 是之 農夫 熱の わが あり ○
 早稲ハ 毛實 ころもて ころもて の 元子 あり 三月中に 耐つ 七月初よ
 收り ころもて なり ころもて 糶米 共 中稲 一名 赤心 ばし ころもて
 ころもて 夏大冬の 訛あり ころもて 是 洋米の 種あり 又 横川 米

り 梶山なとりのり 晩私ハ大さばしとも云世云
オホイ子トホシ ○大稲私ハ南海球美島オラよ生るふ赤米ありて粒
 赤し 完太し味ふとくもりけとの為田ヤセよりくすよよりく
コエ 厚地よ耐るよきハ反てこのり何くてもく天生の異
 種あり ○標私ハ晚稲多し世あれとも 短く粒もし ○標私ハ梅子と
ミラケ つりのあり粒も米粒赤く餅ナに倣してともを毒し
モト とも珍品モツラレよりやりけとの存南島の申米國の赤より此島
イト 米イ亮トよりしとも名の負ソムカさるといち生るし
ワラクキ 此島の稗莖穂房完脆がゆゑオホカセに颶風多と吹ハともく実
オチケシ 殖優ありて一粒も粒も細カリオスきよと多し赤米別乾米と二

日計と種と私架ホシダナとして葉ツクエ登コシカケし似るものを砧アテとしモテ双テ并
ワラモト 子莖本と把トウてお敲ウチタケハともく落オウルおと小春とぬれしの熟
モミカラ とも穀殻モミ磨スリると乾磨カラと六つより炊カキて硬コハしとく
シロトホシ とも白私ハ粳米ウルシコメよ考コハ次但冷造ハ堅コハく粒粒オコシコメの赤く
ドクキ 治断ドクキと傷魚イタムし又酢ス及燒耐ヒ造るよ常稲コハと相おれし○
ムシスリ 蒸磨ムシスリと穀モミと川カハより漬ツクルおと一七日許泉コハの流カみきふハ
ツツガ くわめて漬ツツガなり泥沼ツツガ一漬ツツガものけきつきハ宜しとく
ツツガ とも飯ツツガよりゆりて泥ツツガ臭ツツガあり又大川ツツガより漬ツツガをツツガとくハ粒
ツツガ 軸ツツガ好ツツガと笑ツツガて酒ツツガ史ツツガの旨ツツガ一ツツガちうして送ツツガよのりげ二三日許
ツツガ 遠計ツツガと詣ツツガはとありと
ツツガ ちあげて大瓶ツツガよ入ツツガて意ツツガ調ツツガるより蒸氣ツツガの臭ツツガありと度ツツガ
ツツガ ともしツツガ候ツツガて赤ツツガし又二三日ツツガむおとちし河ツツガげ又二三日

と依ヨる感イをシてス熟スしてモ稗モとモ去ルふもより急ニ米コメ少シ許リと

作スんと熟スるもハ粒リとハ足スとモ踏ミ落シ鍋ヲ煮キて煮キ沸カ

し延ヒ小ヒ攤ヒけ白クして搗カじりと煮キ和トつりふり凡ハ蒸シ米

の中ニ白ク蒸シハ生形ノさやかくと稍上照まと作ルふり或

蕎ノ麵乃徳ノ飯代りと是より煮スて蒸米ハ性素脆テ冷

て粘氣多く搏飯を煮くて炊て蒸盛とりと私

二攪ハ稷一攪まも何とも因て力と役ふ做工のみ

とけ子くぬて憊やと手紙蟻つり但瞬瘡の鞆稍食ふと

場より今醫家をて赤糶とも陳倉米の用は使ふりの

あり存ハ糶稻とも取置れれ凡乾磨にあるハ

白糶れおハ何と糶ぬもと赤也除ぐ而も蒸米ハ能

穀もけ赤穀剥去り白米を煮ふもと煮れるも下等

とるハ搗ぶづくん○長崎聞見録曰唐土の菜ハ膏澤

ふく打易くて漉ふとに繋りて久く保ちづくしと穀

の膏潤みき以てスれハ好いうとまりや唐人此地

の菜の價次小して漉ふとに比りてと壯く調法とると

尺てと称款何と何り此とも西土の稷米ハ好方此私

に擬ふときと去ふつしとるに我人ハ美しき稻と飽

まて喫みれて私ふとハ人中に齋に差とせるハ自お

あるのつりぬもと或いとの書りるものみ太平の化と

偷^{ヌス}める者ハ武士さへ短兵長父の子^シ浩ふる業と頼^{モウラシ}とし
遊藝^{ユウゲイ}の遊^ユは術と猪^{イノ}子とおおひ思^{オモ}は出家頭陀^{シヤウダ}まで梵^{ボツ}嫂^{セウ}
と拘持^{コウジ}て恥^{ハジ}とも心^{ココロ}つらぬハ淺^{アサシ}まし思^{オモ}ひつけても物土
ハ廣地^{ヒロチ}あれハ小^コ路^ロくの道^{ミチ}還^{マド}さへ斯^{コト}方の四五倍^{シバヒ}その
人^{ヒト}未^ミくして盜賊^{トウサク}不^フ義^ギのせ頼^{モウラシ}ハ又斯^{コト}方の十倍^{シバヒ}おとよも
るく^クる先^マ尋^ミ常^{ジョウ}の者^{モノ}と人の物^{モノ}と攘^{ヌス}まぬハ稀^{アサシ}おてそれと
恥^{ハジ}ともあとも次^{ツギ}却^{サカ}て攘^{ヌス}まれくると油^{アブ}断^{タン}と多^{オホク}ふ此^{ココ}一^{イチ}
ても千^チのの悪^{アク}風俗^{フウソク}ハ推^{オシ}する一^{イチ}し女^メふとも連^{レン}中^{チュウ}摺^{ズリ}の^ノ
事^{コト}ハそま^マく淫^{イン}さる^ル因^{イン}親^{シン}親^{シン}中^{チュウ}の造^{ゾウ}はと驚^{オドロク}我^ガと鎖^サ卸^チふ
して向^{ムカ}の家^{イヘ}へ昇^{ノボ}着^キて鎖^サと啓^{ヒラ}き火^ヒ事^{コト}強^{キヤウ}動^{ドウ}する^ルの^ノ町^{チヨウ}ハ第^{ダイ}

一^{イチ}の女^メと片^{カタ}付^ツぬハ盜^{トウ}去^キは又女子^{コノナ}ハ幼^コより脚^{タビ}と本^{ホン}綿^{ワタ}
よて縛^{シバ}ゆ^ルのと歩^アゆと不^フ自由^{ジユウ}おして淫^{イン}奔^{ホン}やぬる^ルあり
そ上^{ウヘ}男子^{コノナ}がちよまて女子^{コノナ}少^{コト}りれハ貧^{ヒン}漢^{カン}ハ終^{シュウ}身^{ミン}妻^メと有^{モツ}
おと^{オト}とゆも大^{オホ}抵^{テイ}衣^イ道^{ダウ}と事^{コト}として一生^{シヨウ}とる^ルさ^サり清^{セイ}
の代^{ダイ}も替^カりておこ^コより柔^{ユウ}弱^{ジュウ}なる風俗^{フウソク}と戒^{ケイ}懲^{チュウ}ておま^マ武^ブ
藝^{ゲイ}とあ^アつとし試^シ場^{ジョウ}よてハ皆^{ミナ}く露^ロ又^{マタ}猪^{イノ}負^ヒと伎^キさやると
云^ク志^シくれハ吾^ガ人^ニ何^{ナニ}様^{サマ}大^{オホ}相^{サマ}ある^ル露^ロとても志^シ劍^{ケン}猪^{イノ}負^ヒと
ハ何^{ナニ}もまし又^{マタ}妻^メ私^シの食物^{シヨク}よてと唐^{タウ}福^{フク}よけ様^{サマ}ある^ルまし
我^ガ身^{ミン}の不^フ埒^{ラチ}さく^クあ^アく稼^カう^ウは一生^{シヨウ}妻^メ好^{コト}持^ヂぬ^ルもあ^アる
まし^{マシ}かく^{カク}は^ハ好^{コト}地^チよ生^シ出^デし^シハ^ハ時^{トキ}よ取^クて^テ身^{ミン}の^ノ幸^{サイ}ふる^ルとや

籬



籬孫

比通知籬

和名鈔○即籬孫也尾張

比古波衣

新撰字鏡按比古ハ曾孫と比古古と

訓古言梯細枝ありには和名鈔前漢天文志註波由

中謂桑榆孽生為籬禾野生曰旅さけは字鏡穀再生と

比古波衣と訓や和名鈔木籬亦訓と地れうそそ

曾於比籬和字引手蓋比通知の轉あり或云引ハ比古

引手の訛ありし蓋冷毛御常あるの地冬と樹蔭越

政全書云鳥口籬色黒而能水与寒又謂之冷水結籬之下

品とん梁日次紀籬籬後再生又生の沖繩方言昂復生

度生とん再籬

ハ俗意あり

稻孫 廣雅稻已割而復抽曰稻孫

再熟稻 唐書開元十

再熟稻 四氏月令養生要集等亦同

九年揚州奏

其粒與常稻無異 再稔農政全書其已刈而根復發苗

謂之再熟稻亦謂之再

稔 秩韻會毛氏云秩本再生稻刈而重出後先相繼故借為秩序字

再生稻 字彙○秩玉

藩名 へルグルーイエンデレイト

比通知ハ彰土あり水田乾て復するとんえり和名鈔

みハ自生稻の部ハ收りもども今集ハ秋りれり田

あつるのつちの種ハあぬハ昔と今はこれ秋もやぬり

と録るハ標もばいハあきハ再生稻也 歌什ハ

あつる山田のつち種ハあきハあきハ再生稻也 歌什ハ

不咸者謂之董 董ハ此云犬稗の事 再生稻ハ南方の稼あり書紀曰 天武天皇廿

一年秋所遣多彌島使人等貢多彌國圖其國去京五千餘

里居筑紫南海中其國稔稻常豐一苗兩收云々多彌國ハ

即今の仲繩島なり 仲繩即流求の正名なり後漢書所謂

着島 今為恩納嶽恩納間切等あり又流求ハ屋其卷ハ仍

天下一大神大父持命與須久奈比古命巡行天下時稻種墮

此處故云種神龜三年改字多祿とんえハ流求ハ

書ハるるよてそ名の相衆とんえハ種ハ 先是推古

天皇廿四年掖玖人先後并三十人來之 舒明天皇元年

夏四月遣田部連^{ツカサ}于掖玖^{ムサシ}二年秋九月田部連等至自掖
 玖三年春二月掖玖人^{ムサシ}帰化^{イナリ}と云々田部八田地民戸と掌
 の官あり掖田戸定民籍の事舒田部連掖玖子在小と約
 明紀三十年子出り
 一、年曼時より南島の田地戸數を檢校し貢賦の事因
 て行遣しとハんんぬ其三年春二月掖玖人帰化宣子朝
 貢の始と云々所謂掖玖亦々の流求あり事詳南島凡奄
 志小辨也
 美島より以南^{ミナミ}沖繩^{オキナワ}と云てハ九月霜降の節^{ミナミ}稲田^{イナ}の苗代
 と下して臘^{シハス}月或ハ正月より旱苗と極後行振と云々毎
 子^{イナ}稻科^{イナ}の^{イナ}旨^{イナ}一水芋と挿添^{ツク}あり是地勢^{イナ}よく^{イナ}稲の
 う^{イナ}れ^{イナ}バ^{イナ}滋^{イナ}過^{イナ}と云々と云々己子^{イナ}春^{イナ}此^{イナ}氣^{イナ}と云々より日

日^{イナ}子^{イナ}長^{イナ}茂^{イナ}五月^{イナ}は^{イナ}成^{イナ}熟^{イナ}して刈^{イナ}収^{イナ}し根^{イナ}より五^{イナ}六^{イナ}寸^{イナ}の^{イナ}所
 と^{イナ}切^{イナ}り^{イナ}ば^{イナ}そ^{イナ}科^{イナ}より^{イナ}引^{イナ}取^{イナ}乃^{イナ}稻^{イナ}生^{イナ}ま^{イナ}て秋^{イナ}晚^{イナ}の^{イナ}次^{イナ}二^{イナ}度^{イナ}刈^{イナ}
 と^{イナ}ま^{イナ}り^{イナ}の^{イナ}ま^{イナ}し但^{イナ}又^{イナ}し^{イナ}と^{イナ}取^{イナ}ま^{イナ}ハ^{イナ}年^{イナ}の^{イナ}是^{イナ}沖^{イナ}繩^{イナ}と^{イナ}浪^{イナ}り
 是^{イナ}より^{イナ}天^{イナ}武^{イナ}紀^{イナ}乃^{イナ}多^{イナ}祢^{イナ}島^{イナ}と云々の^{イナ}即^{イナ}流^{イナ}求^{イナ}と云々の^{イナ}と云々の
今^{イナ}按^{イナ}ハ^{イナ}凡^{イナ}ハ^{イナ}一^{イナ}南^{イナ}島^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}て^{イナ}掖^{イナ}玖^{イナ}多^{イナ}祢^{イナ}島^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}す
 子^{イナ}往^{イナ}者^{イナ}皆^{イナ}經^{イナ}歴^{イナ}の^{イナ}由^{イナ}る^{イナ}路^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}警^{イナ}ハ^{イナ}南^{イナ}島^{イナ}人^{イナ}川^{イナ}辺^{イナ}郡^{イナ}七
 島^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}吐^{イナ}火^{イナ}羅^{イナ}國^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}齊^{イナ}明^{イナ}紀^{イナ}ハ^{イナ}觀^{イナ}貨^{イナ}邏^{イナ}國^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}都^{イナ}貨^{イナ}邏^{イナ}人
 何^{イナ}も^{イナ}志^{イナ}は^{イナ}し^{イナ}或^{イナ}本^{イナ}は^{イナ}墮^{イナ}羅^{イナ}人^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}又^{イナ}續^{イナ}紀^{イナ}ハ^{イナ}度^{イナ}感^{イナ}島^{イナ}と
 は^{イナ}七^{イナ}島^{イナ}の^{イナ}中^{イナ}の^{イナ}寶^{イナ}島^{イナ}の^{イナ}生^{イナ}田^{イナ}音^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}今^{イナ}嚴^{イナ}音^{イナ}の^{イナ}轉^{イナ}あり^{イナ}今
 蓋^{イナ}今^{イナ}七^{イナ}島^{イナ}中^{イナ}の^{イナ}平^{イナ}島^{イナ}あり^{イナ}此^{イナ}流^{イナ}求^{イナ}と^{イナ}云^{イナ}ハ^{イナ}也^{イナ}齊^{イナ}明^{イナ}紀^{イナ}注^{イナ}或^{イナ}本^{イナ}墮^{イナ}羅^{イナ}ハ
 成形圖說卷之十六



吐火羅も度感も嘗へしりおとてさて其再熟の稲
 也初生の種も亦あつてもあるも南島の稲ハ唐山乃
 種のぶとくも脆弱あして斯方此種は次魚し山海經
 云交趾國有一歳再熟之稻異物志云交趾稻圖書編云界
 稻十月種次年四月熟是冲縄の種とおれし盖炎徼偏熱
 乃志つゝしむる新志より尚ふも是ら次又按通雅云
自江淮以南田
收三收隋書婆登國有月熟之稻一月一熟○廣志云天竺
稻歲四熟想ふも一月一熟一歳四熟の稻信より
りも強と念ふ夫西土まで酒と造は精より何れハ成
 りてあし而斯方ハ此種を用ふ晉陶淵明彭澤令
其公田悉く林稻と極
ふるもつゝに妻子とも憂て何れと種公田とと何れと種
ハ飯米あかるつゝと種公田とと何れと種公田とと何れと種

氣象ゆゑに料田よりて林稻と極て種は酒よ造るの
 了見あり又天工開物云南方酒皆糯米所為又稻紀云釀
 酒宜用大師古造粉宜用小師古受西西土方葉入その
 土の種ハ酒と造るも皆西土方葉入その
 皆種あり斯方産科等も用るものハ稻孫あり種を用れ
て泥むも是より由て觀ハ西土の種ハ斯方の種と擬べく
蟻つり 是より由て觀ハ西土の種ハ斯方の種と擬べく
 其種ハ斯方の種と擬べく又和蘭人其地産の鳥類
 と齋しぬる船中糯米の粉と餌とに而唯糖の甘味
 川へ羸弱て危あつても者ハ斯方の種米と餌ハ思
コモンテ子肥健也又斯方の種米と餌ハ思
モチコメて肥子むつりとも又生兒の祝儀子糴糴と豫知子と産
又帯巻を包と添て種ると古法とに

於呂加於比稻和名鈔○

野立生稻和名鈔

籼亦作稻和名鈔引唐韻自生稻也○籼音棹集韻禾籼
生也○籼音說文籼今年落來年自生謂之籼○後漢
光武紀嘉穀作嘉野旅生注寄也不因播種而生唐書馬燧傳
大曆四年兵亂後大旱田中生籼禾人頗便之注籼禾再生
也唐書開元十九年揚州奏籼生籼二百一十五頃再熟籼
一十八百頃此自生籼孫野稻吳志嘉禾三年由
為禾興縣○唐地理志滄州本魯城乾符元
年生野稻水穀十餘頃夔魏創民就食之自生稻唐韻
○通雅揚州生籼稻自生稻也○
從字彙補今年籼來年自生也

蕃名 ウイルデレイスト

おろかおひとハ即自生也凡播種と云くして野生と云

この生草多く茅苳カヤスギありて籼穂と考ふるはとあり本藩露

島嶽の自然籼と云重ハ苳スギより輓チカゴロ近安永八年十月

朔日大隅郡檜島炎上して海中五の新嶼と涌出也

始檜島絶頂の東南兩間と稱ふ峽あり爰二湖あり白
他と云ふ色白し同一町嶺と稱ふ水満り湖あり湖の
遊遊大小なる魚は先是檜島重二日二ありいり雨流
以雨ハ流ささし沙流流ハ火の子乃乃は乃は乃の
果して朔日味新雨間より火を為り前日比震ふあ
方射し里又當かの己年の刻島中の井患沸騰沸るる選
出又海水水をを子子変ははは是火變乃微也凡山上火と登り必
朔望の交まより蓋海嶺の候乃は乃今事乃因て附
以於是檜島及比隣の地沙反降降て堆堆六と七尺許田畝
川谷悉く埋没し白沙渺々乃是耳時に白沙原頭乃茅苳
自生オシカラし生末乃各稻實と結乃穎と登又新嶼乃上乃播

種と侍ど松の稚生茅比嫩苗叢茂て茅穂と之米粒と
着て土民採食するも是より皆曰天道人を殺さんと蓋儀島
火変新津浦出るとはの續紀所載神護中大隅海中神造
の島及同紀天平寶字八年鹿島信余村の前より化成三島
也しより此の了僅に三度よこを今復新嶼と涌出と
るは混沌再い來り眞津自生うぶとし故に其勢氣葱州
化して木稻と茂り竹實變じて米粒と結ぶも是より
也竹實米粒とあは霧島嶽淡土の時より有り後又肥前國
人よ少はけりしは客歲肥の雲仙岳より大發して
て嶺中二里許に新島ありてあまの島に於て
雜樹叢生ふるあまの島に於ては松樹ハるを
獨特に多かりぬる島の邊に於ては
不測にやせとおろかしむるは
なり

のいありしとかくは例嘗て其自生稻の種子と以て命
よおりの合せはるるに嘗て其自生稻の種子と以て命
して試み植さむるも米はよ出はの穂ハおしく葱みし
て稲ふしきやハ月のりけやあき澄みれハ穂あり
らにさ〜ハ上者よ自生稻とつものも是より固ておの
るも〜按に續紀和銅六年正月左京職獻稗化為木一
莖洲鑑類函江表傳孫亮五年交趾稗草化為稻大日
本史引畧記曰延長五年四月北山野穀旅生人競採之



